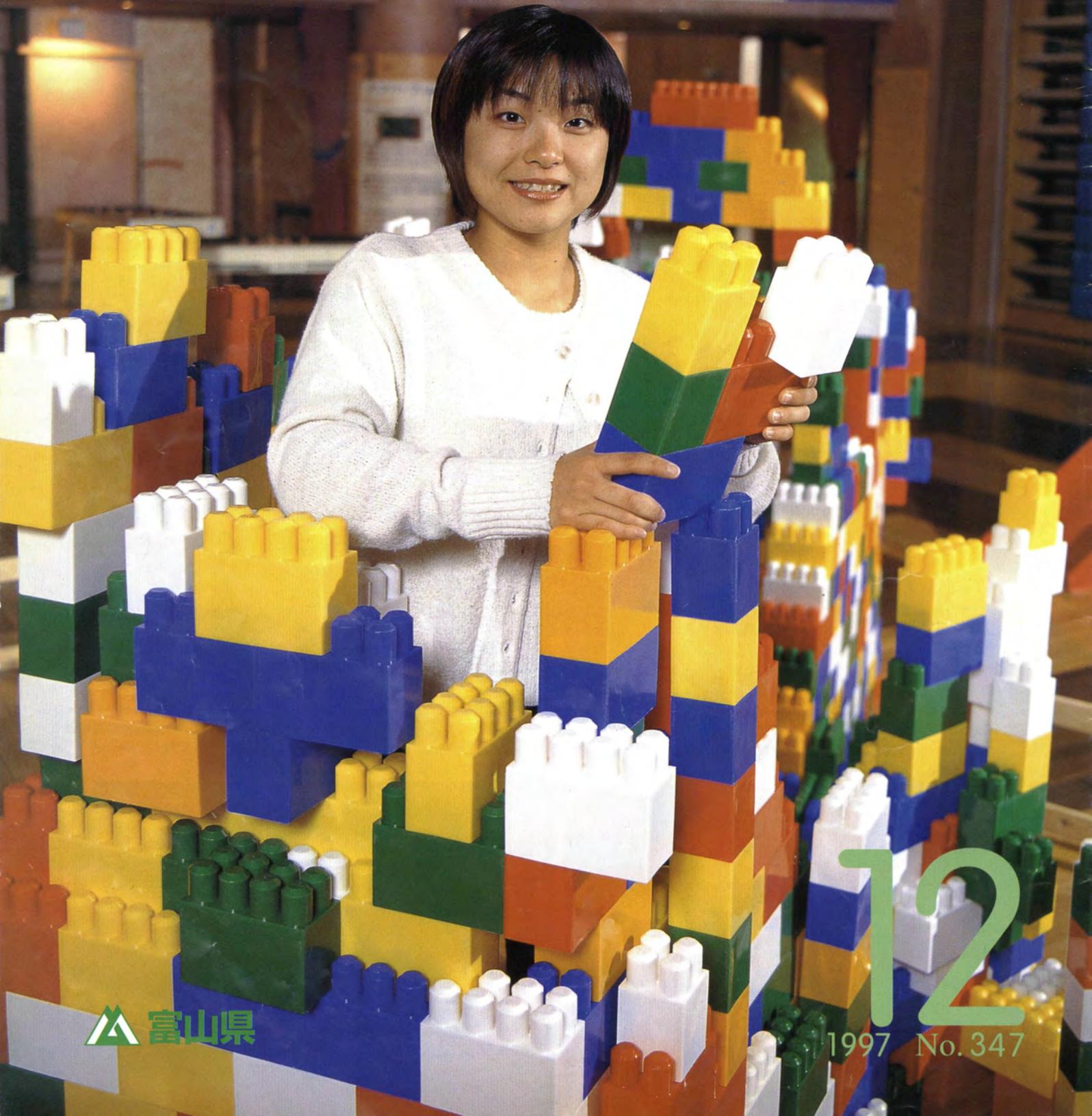


県 広 報

特集/県政この一年

とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT





▲ロボット「イブシロン」を持つ森野君(右)と田畑君

「強豪ぞろいのなかでこんな好成績を残せるとは思いませんでしたね」と声をそろえるのは、十一月に群馬県で開催された第五回高校生ロボット相撲全国大会の自立型部門で、第三位に輝いた大沢野工業高校電子機械科二年の森野祥司君と田畑良太君。この大会は、平成五年に富山市で開かれた全国産業教育フェアを機に始まって以来、高校生による最大規模のロボット競技大会として定着し、毎年開催されています。

「僕たちの高校は、ラジコン(無線操縦)型自立型部門ではなかなか勝てませんが、自分で作ったロボットが活躍するハイテクロボット。相手をセンサーで感知し、本体に組み込まれたプログラムで戦います。二人の自信作「イブシロン」は、素早い動きはもちろん四つの立会いボタンを持ち、相手に応じて立会いのパターンが変えられるほか、掃除機のように土俵に吸いつき「重い腰」を

実現させた優れたものです。大会初戦に臨んだ二人は大激戦のすえ相模台工高(神奈川県)に薄氷の勝利。「そのときは、最初の目標が達成できたのでもう満足といった感じでした」と振り返る森野君。そんな森野君を見た田畑君は、「せっかくだからもっと上をめざそう」と気合を入れ直したんですよ」と笑います。それからは、二人で次の対戦相手の試合を観戦し、弱点の発見に余念がなかったといいます。それが功を奏し、準決勝まではすべてストレート勝ち。準決勝では優勝した豊川工高(愛知)に惜しくも破れたものの、三位決定戦で圧勝し、同校の実力を全国にアピールしました。



▲ロボット相撲全国大会

ひととき とやま遊学感

第五回高校生ロボット相撲全国大会第三位 大沢野工業高校電子機械科 森野 祥司君・田畑 良太君

エンジニアの卵たちの熱い戦い

とやま遊学感

「遊び」は、子どもの成長にとってはなくてはならないもの。今回私が訪れた富山県こどもみらい館は、子どもたちが遊びを通じて感性を磨き創造力を育むことができる空間です。さっそく同館の平野さんに館内を案内してもらいました。こどもみらい館は建物自体が巨大な遊具。変化に富んだつくりの館内には様々なコーナーがあります。いろんな素材と道具を使って工作を体験できるのが「工房」。自分の思い描くものを形にしようと、夢中で木工作に取り組み子どもたちのいきいきとした表情が印象的でした。また、ぬいぐるみや滑り台などを備えた「幼児コーナー」では、小さなお子さんを安心して遊ばせることができます。ほかに、パソコンなどに親しめる「AVコーナー」や世界の絵本が楽しめる「図書コーナー」、いろんなおもちゃや人形に出会える「ギャラリー」

などがありますが、なかでも特に人気の高いのが「プレイトンネル」。この日も、天井からつり下げられたトンネルを動き回る子どもたちの元気な声がかたまっていました。秘密の抜け道や隠れ家は、いつの時代でも子どもたちの冒険心をくすぐるものなんですね。「ここは冬場も暖かく、安心して遊べます。また、三月までは駐車場も無料なので、ぜひご来館ください」と平野さん。私も、希望どおり保母さんになることができました。ここで園児たちを思いっきり遊ばせたいと思います。

こどもみらい館 所在地 射水郡小杉町黒河 (県民公園太田山ランド内) 開館時間 午前9時30分～午後5時 休館日 火曜日、第4水曜日 (休日の場合はその翌日) 入場料 無料 年未年始 ※3月15日まで、日曜・祝日、第2・第4土曜は、ランド内を無料バスが運行中。

驚きと感動に満ちた遊び空間 富山県こどもみらい館

レポーター：十二町友美さん(県立保育専門学院) (表紙の人)



▲どこまで続いているのかな?(プレイトンネル)



楽しい歌遊びのはじまりはじまりー(幼児コーナー)



ハスラー気どりでバンパーボール(プレイホール)



▲ほら、上までのぼれるよ。



自由な発想でつくってみよう(パンフレットコーナー)

12 CONTENTS

表紙 撮影/赤羽仁論(富山県写真家協会会員)
とやま遊学感/富山県こどもみらい館
ひとアズとやま/大沢野工業高校電子機械科 森野 祥司君 田畑 良太君
特集/県政この一年 PINUP TOYAMA 写真/松田勉(富山県写真家協会会員) 詩/上木行博(富山現代詩人会会員)
クローズアップ/第三十五回全国繊維技術展
②富山県総合福祉会館(仮称)起工式
③海洋深層水'97富山シンポジウム
エッセイ/池上栄一(陶芸家)
トビックス/人権週間のお知らせ
アイドリング・ストップ運動
県からのお知らせ
暮らしのアドバイス
とやま水紀行/生地共同洗工場(黒部市)
表3 16 14 13 12 10 8 2 1 2

県政

この一年

今年、現在の地方自治制度が発足して50周年にあたります。地方団体においては、自主性や自立性を高め、個性豊かで活力に満ちた地域社会づくりを進めていくことが求められています。その一方で、厳しい財政環境のなかで行政改革と財政の健全化を推進することが大きな課題となっています。

このため県では、「人材立県」、「生活立県」、「国際立県」の三つの立県構想を掲げ、「住みよい県」から「住みたい県」をめざして施策を着実に推進するとともに、行政改革と財政の健全化に積極的に取り組み、地方集権の時代にふさわしい行政システムの確立に努めています。

ここでは、「明日を拓く人づくり」、「魅力ある郷土づくり」、「活力ある産業づくり」の三つの政策の柱に沿ってこの一年を振り返ります。



▲連日大勢の人々で賑わった'97スーパーハウジングフェアin富山(10月9日～12日)

明日を拓く人づくり

●健康・福祉の増進

県民福祉条例に基づき、高齢者や障害者等に配慮した生活関連施設の整備基準についての規則を定めたほか、地域総合福祉の中核施設となる総合福祉会館(仮称)の建設に着手しました。

また、子どもを生き育てやすい環境づくりを推進するため、すこやか子どもプランを策定し、子育て支援や母子保健対策の充実に取り組みました。

国際健康プラザ(仮称)については、生命科学館、健康スタジアム、国際伝統医学センターからなる総合的な健康づくりの中核拠点として施設整備に着手しました。また、精神保健の拠点となる心の健康センターを開所し、ストレス対策事業やデイケア事業に取り組んだほか、精神障害者の社会復帰モデル施設「ゆりの木の里」の整備に對し支援しました。さらに、ノーマライゼーションを基本理念とするtoyama障害者自立共生プランを策定しました。

2000年とtoyama国体については、本県での開催が正式に決定し、開催決定記念イベントを実施したほか、西部総合体育館(仮称)や福光射撃場などの競技施設の整備に着手しました。



▲国際健康プラザ模型

設の整備に着手しました。

●生涯学習の推進

生涯学習ネットワークシステム「toyama学遊ネット」の二十四時間運用を開始したほか、県立図書館の増改築や資料センターの整備に着手しました。

学校教育については、新たに上市高校に総合学科を開設したほか、特別コースの設置校を増やすなど、特色ある学校教育を進めました。さらに、いしかわ看護学校に高等部を新設するなど、障害児教育を充実しました。

●科学・文化の振興

昨年の国民文化祭の成果を生かし、新たに富山県民芸術文化祭を開催したほか、水墨画を中心とする新美術館の建設に着手しました。



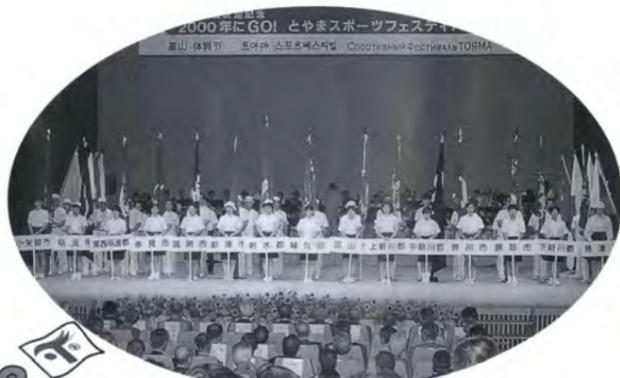
▲心の健康センター竣工(3月26日)

●若者と女性の力を社会に

みのり豊かな男女協同社会の実現をめざす活動拠点として女性総合センター(サンフォルテ)を開館したほか、新toyama女性プランをとよま男女共同参画プランとして改訂し、それに基づく施策を推進しました。

また、一月のロシアタンカー重油流出事故を機にボランティアへの関心がいっそう高まるなか、ボランティア活動の普及と推進を図るため、関係団体等が集まりボランティア活動推進富山県民会議を設立。この会議のもと、総合的に支援事業を行う富山県民ボランティア総合支援センターを設置しました。

このほか、2000年 県民が燃えるプログラム事業については、民間の若手からなる委員会による具体的なプログラム案が決定しました。



▲国体開催決定記念「2000年にGO!」toyamaスポーツフェスティバル(8月8日)



◀国体マスコットの時丸(左)と風丸



▲恐竜足跡化石ミステリーツアー(8月22日～26日)



▲富山県民芸術文化祭オープニングフェスティバル(9月23日)



▲サンフォルテ開館記念式典(4月24日)



▲toyama男女共同参画プラン



▲富山県民ボランティア総合支援センター設置(9月9日)



▲国際健康プラザ起工式(7月28日)

魅力ある 郷土づくり

●快適な暮らしの実現

防災対策については、全市町村を対象にした震度情報ネットワークシステムの運用を開始したほか、地域防災計画の震災編に引き続き、風水害、火災、事故災害に関する計画の策定に取り組みました。

また、住宅月間イベントとして'97スーパーハウジングフェア in 富山を開催し、富山県の良好な居住環境や二十一世紀の住まいに関する様々な情報を全国に向けて発信しました。

●魅力ある地域づくり

富岩運河の船だまり地区において整備を進めてきた富岩運河環水公園が一部供用を開始しました。また、昨年の全国都市緑化とやまフェアの成果を緑化活動の推進につなげていくため、富山県花と緑の祭典を開催しました。

さらに、富山市大手町地区における国際会議場等の複合型都市施設に対して支援するなど、魅力ある都市づくりに努めました。

●県土の保全と活用

神通川左岸流域下水道が、年内に一部供用を開始するほか、農村下水道の整備や合併処理浄化槽の普及を図るなど、全域下水道化を進めました。

立山地区においては、新しい立山自然保護センターの実施設計を行ったほか、立山カルデラ砂防博物館の建設を進めました。また、来年八月に開催される第四十回自然公園大会に向け準備を進めたほか、桂湖周辺地域においてビジターセンターの整備を進めました。

●交通・情報通信体系の整備

北陸新幹線については、石動・金沢間および糸魚川・魚津間の建設工事の促進を図ったほか、その早期整備について関係方面に働きかけました。

また、東海北陸自動車道および能越自動車道について、引き続き整備の促進を図りました。

伏木富山港については、伏木、富山、新湊の各地区において引き続き整備を進め、伏木外港の一部である伏木万葉ふ頭の埋立てを完成しました。

富山空港については、県空港整備構想検討委員会において昨年示された拡充整備構想の具体化に向け基本調査に取り組みました。

このほか、昨年の全国マルチメディア祭の成果を生かし、とやまマルチメディア祭を開催するなど、地域の情報化を進めました。

●国際化時代への対応

環日本海地域の環境保全等の推進拠点となる環日本海環境協力センターを設立したほか、日本、中国、韓国、ロシアから二十八の自治体の参加のもと環日本海環境自治体サミットを開催し、自治体間の環境協力のあり方などについて協議しました。

なお、今年にはロシア沿海地方との友好提携五周年にあたることから、同地方の代表団が来県したほか、本県友好代表団を沿海地方に派遣し、友好交流を深めました。



▲富山市大手町地区における複合型コンベンション完成予想図



▲富岩運河環水公園開園式（7月1日）



▲高田宮同妃両殿下（来県10月8日～9日）



▶環日本海交流の拠点に向け拡充整備構想が進む富山空港



▲環日本海環境自治体サミット（7月21日～23日）



▶ロシア沿海地方代表団来県（5月22日）



▶スウェーデン国王夫妻来県（5月25日）



▲とやまマルチメディア祭（9月5日～7日）



▲環日本海環境協力センター設立（4月30日）

《主なできごと》

（平成8年12月～平成9年11月）

- 12月 2日 エイズシンポジウム in 富山
- 12月 5日 12月定例県議会（～19日）
第47回富山県勤労者美術展（～8日）
- 12月 15日 立山山麓スキー場合同オープニングフェスティバル
- 1月 14日 ヘリコプターTV運用開始式
- 1月 24日 '97東京ドームふるさとフェア（～26日）
- 2月 8日 「北方領土の日」記念事業
- 2月 9日 花と緑の冬のフェスティバル（～11日）
- 2月 12日 省資源・省エネルギー運動富山県民大会
- 2月 13日 ベンチャープラザ中部'97インとやま
- 2月 15日 '97らいちょうパレエの祭典（～16日）
- 2月 28日 2月定例県議会（～3月25日）
- 3月 18日 平成8年度富山県林業カレッジ普通課程（一期生）修了式
- 3月 20日 TOYAMA NOW in 原宿'97
- 3月 26日 富山県心の健康センター・富山県精神薄弱者更生相談所・富山市保健所新築工事竣工式
富山県畜産試験場竣工式
富山県女性総合センター竣工式
- 3月 27日 富山県女性総合センター竣工式
- 4月 1日 辞令交付式
- 4月 15日 富山勤労者総合福祉センター開館記念式典
済生会富山病院落成式
- 4月 21日 「水墨画を中心とする新美術館」起工式
- 4月 24日 サンフォルテオープニングイベント（～27日）
- 4月 25日 県政モニター委嘱状交付式・研修会
- 4月 30日 環日本海環境協力センター設立
- 5月 3日 立山山麓グリーンドキュメント（～6日）
- 5月 9日 平成9年春の叙勲伝達式
- 5月 13日 知事のまちなまり（井波町）
- 5月 20日 キてミテトーくTOYAMA（～22日）
- 5月 21日 第48回富山県植樹祭
- 5月 22日 平成9年度とやま賞贈呈式
富山県・沿海地方友好提携5周年記念事業（～27日）
- 5月 25日 スウェーデン国王夫妻来県
- 6月 1日 富山一函館便毎日就航記念式典
- 6月 6日 北陸新幹線建設促進富山県民協議会総会
- 6月 12日 東海・北陸ブロック老人福祉施設研究大会
- 6月 16日 6月定例県議会（～27日）
- 6月 21日 富山市大手町地区第一種市街地再開発事業起工式
- 7月 1日 富岩運河環水公園開園式
- 7月 7日 富山県工業技術センター生活工学研究所竣工式
- 7月 8日 第55回国民体育大会・第36回全国身体障害者スポーツ大会開催決定
- 7月 14日 知的所有権センター開設記念講演会
- 7月 21日 環日本海環境自治体サミット（～23日）

活 力ある 産業づくり

●新世紀への産業展開

高岡オフィスパークについては、企業用地の造成と中核施設となる産業高度化センターの基本設計を進めたほか、これに関連して、デザイン振興の支援拠点となるとやま総合デザインセンターの基本設計に着手しました。

また、工業技術センター生活工学研究所が完成し、時代のニーズに応える生活関連技術の研究に取り組みました。

富山湾の深層水については、引き続きその利用研究に取り組んだほか、全国の研究者等による第一回の深層水シンポジウムを開催し、新しい利用法について情報を交換しました。

このほか、移転新築した畜産試験場において、優良種畜の育成技術などの研究に取り組みました。

また、ベンチャープラザ中部'97インとやまを開催し、企業と投資家との出会いの場を提供しました。

さらに、魅力ある商店街づくりを推進するため、高岡市中心商店街における駐車場対策のモデル事業や、富山市中心商店街におけるインターネットを活用した商品情報の提供事業を支援しました。



▲工業技術センター生活工学研究所竣工式（7月7日）



▲林業カレッジ第一期生修了式（3月18日）

●農林水産業の振興

集落営農組織の育成や農作業受託センターの設置を支援したほか、果園芸種苗需給調整協会の設立や、第四十五回全国リンゴ研究大会の開催など、園芸の振興に取り組みました。

林業については、林業カレッジの一期生による林業機械化チームを発足させるなど、担い手の育成確保に努めました。

水産業については、水産試験場の調査船「立山丸」の代船建造に着手したほか、引き続き資源管理型漁業を推進しました。

●工業、商業サービス業の振興

ベンチャー企業に対する融資制度の充実や投資支援制度の活用により、中小企業の新分野への進出や新産業の創出を支援しました。

●雇用と勤労者福祉

雇用対策については、就職ガイダンスやUターンフェアなどを実施し、新規学卒者等の就職支援対策を推進しました。

また、勤労者に職業情報や文化・スポーツ活動の場を提供する施設として開館した富山勤労者総合福祉センター「とやま自遊館」の整備および運営に対し支援しました。



▲畜産試験場竣工式（3月26日）



▲ベンチャープラザ中部'97インとやま（2月13日）



▲ジャック・マイヨール氏をゲストに招いたジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'97（8月21日～24日）



▲Uターンフェア・イン・とやま（8月14日）



▶とやま自遊館

施 策の 実現のために

行財政改革検討委員会を中心に行政システムについて幅広く検討を行い、事務事業の見直しや経費の節減合理化、財源の効果的な配分などに取り組みました。また、知事を本部長とする行財政改革推進本部を設置し、中長期的な課題等についても検討を進めました。

組織・機構については、「2000年国体準備局」を「2000年国体局」に改組したほか、ボランティア活動を支援するため、生活環境部県民生活課にボランティア係を設置しました。また、農林漁業生活センター等を廃止するなど、行政組織の簡素化と機能の統合に努めました。

このほか、住民生活と密接に関連した事務について、さらに市町村に権限移譲を進めたほか、国において地方分権推進計画が早急に策定されるよう働きかけるなど、地方集権の推進に努めました。



▲富山県の新聞広告「日本のやる気。」（3月29日）

- 7月 23日 海洋汚染に係る準備及び対応に関するNOWPAP第1回フォーラム会議（～25日）
- 7月 28日 国際健康プラザ起工式
アジア環境国際フォーラム（～30日）
- 7月 29日 とやまファン倶楽部会員交流会
富山県イメージアップ賞授賞式
- 8月 2日 県立大学ダ・ヴィンチ祭
- 8月 7日 知事のまちなまり（黒部市）
- 8月 8日 2000年にGO! とやまスポーツフェスティバル
- 8月 14日 第4回Uターンフェア・イン・とやま
- 8月 20日 旅費全庁調査結果の公表
- 8月 21日 ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'97（～24日）
- 8月 22日 恐竜足跡化石ミステリーツアー（～26日）
- 8月 23日 第15回北方領土返還要求富山県大会
- 8月 28日 第45回全国リンゴ研究大会（～29日）
- 9月 3日 平成9年度富山県総合防災訓練
- 9月 5日 とやまマルチメディア祭（～7日）
- 9月 9日 ボランティア活動推進富山県民会議設立
富山県民ボランティア総合支援センター設置
- 9月 11日 9月定例県議会（～26日）
- 9月 23日 第1回富山県民芸術文化祭オープニングフェスティバル
- 9月 26日 旅費不適正支出にかかる職員処分
- 9月 29日 一般国道359号砺波バイパス完成式
- 10月 2日 とやまテクノフェア（～5日）
- 10月 3日 バイオアッセイ国際シンポジウム in 富山
- 10月 5日 丘の夢ふれあいフェア'97
- 10月 8日 第13回富山県育樹祭
高円宮同妃両殿下ご来県（～9日）
- 10月 9日 '97スーパーハウジングフェア in 富山（～12日）
高齢者雇用促進大会
- 10月 15日 第35回全国繊維技術展
- 10月 18日 第14回特産王国とやまフェスティバル（～19日）
富山県民生涯学習フェスティバル（～19日）
- 10月 22日 富山県総合福祉開館起工式
- 10月 28日 富山県西部総合体育館起工式
- 10月 29日 海洋深層水'97とやまシンポジウム（～30日）
- 11月 4日 平成9年度富山県功労表彰式
- 11月 5日 平成9年秋の叙勲伝達式
技術専門学院創立10周年記念式典
- 11月 7日 県立長生寮改築工事竣工式
- 11月 8日 第10回とやま県繊維フェア
- 11月 12日 デザインウェブ'97 イン 富山（～21日）
- 11月 14日 富山県・沿海地方友好提携5周年記念事業 富山県友好代表団派遣（～18日）
- 11月 25日 '97まちづくりシンポジウム in とやま
- 11月 28日 地方自治法施行50周年記念式典

朝はやく砂浜にたたずむ、
映えるあかね色の時間は
しのめの空に
刷いた雲を賑わし
トレモロを織りだす
明星が命なく瞬くとき
沈黙のごとくよどんだ
この有磯の海原は
連峰のシルエツトを招き寄せる

朝はやく浜辺を歩く、
風はなく、波音はなく
潮の匂わない海に
一羽の千鳥が緑葉をくわえ
黒い岩影に身を潜めて
美しく訪れる夜明けを待つ

さあ！羽ばたこう
希望の天空をめざして
永劫のひとときのなかに
喜びの微笑ほほえみを贅えながら

PIN UP TOYAMA
ピンナップとやま

カーズ・アツプ



▶最新の機器なども展示

最先端の技術と素材を 用いた製品が一堂に

第三十五回全国繊維技術展 10月15日～17日

福野町の富山県工業技術センター生活工学研究所において、十月十五日から十七日まで第三十五回全国繊維技術展が開催されました。これは、繊維産業における新技術の開発や新製品の創作意欲の向上を図るため、全国の公設試験研究機関の試作品や企業作品などを一堂に展示し、優秀作品を表彰するもので、本県では初の開催となります。

今回は、全国三十の公設機関と百八十の企業や組合が、合わせて五百七十八点を出品。ヒノキエキ

スなどをマイクロカプセル化して付着させ、防虫・殺菌効果を持たせた子供服や、ガラスビーズを繊維に混入させることにより夜間に光が反射するスポーツウェアなど、最新技術を用いた製品の数々に、繊維業界関係者や会場を訪れた県民らが興味深く見入っていました。

なお、県内からは、公設機関部門で生活工学研究所の「NCキルティング・スキウエア」が、民間部門で北陸エステアール協同組合の「ボディスーツ」が中小企業庁長官賞を受賞するなど、入賞作品二十五点のうち県内作品が八点を占め、県繊維業界の実力を大きくアピールしました。



▲様々な素材や試作品を展示

地域総合福祉の 拠点が起工

富山県総合福祉会館起工式 10月22日



富山県総合福祉会館(仮称)の起工式が十月二十二日、建設予定地である富山市安住町の済生会富山病院跡地で、県や工事関係者ら約八十名が出席して行われました。

式では、中沖知事がかま

入れを、設計者、施工業者代表がそれぞれくわ入れ、すき入れをした後、出席者が玉串を捧げて工事の安全を祈願しました。続いて直会が行われ、中沖知事は「住民と行政が一体となって地域総合福祉を推進する中核施設、しあわせ富山のシンボル施設として整備したい」とあいさつ。沼田県議会議長の祝辞に引き続き、出席者全員による乾杯で起工を祝いました。

同館は、参加型福祉活動の推進、福祉人材の養成、福祉情報の受発信の三つの機能を持つ、文字どおり地域総合福祉の拠点。県社会福祉協議会や福祉カレッジ、ボランティアセンターなどが入居するほか、総合相談コーナーや福祉機器展示場、交流サロン、県民福祉ホールなどを整備する予定です。

鉄筋コンクリート地上七階、地下二階で総工費は約五十六億八千万円。平成十一年秋の開館を目指しています。



▶「住民と行政が一体となった地域総合福祉」とのべた中沖知事



▲総合福祉会館完成予想模型

深層水の無限の 可能性を探る

海洋深層水'97—富山シンポジウム 10月29日～30日



▲深層水を利用した商品などを展示

全国から海洋深層水研究者等約三百名が参加し、十月二十九日から二日間、「海洋深層水'97—富山シンポジウム」が富山市のボルファートとやまで開催されました。

開会にあたって中沖知事が、「本開催を契機として、海洋深層水の研究が飛躍的に進歩することを願ってやまない」とあいさつした後、海洋深層水利用研究会長の酒匂敏次氏が基調講演を行いました。そのなかで酒匂氏は、「資源として深層水を利用すれば、食糧とエネルギーの二大問題に同時に対応することが可能である」と述べるとも

に、今のうちに基礎データを集めることの必要性を強調しました。続いて行われたシンポジウムでは、県水産試験場の藤田大介主任研究員が、サクラマスやヤマエビの種苗生産等の深層水の活用状況を報告。このほか、アトピー性皮膚炎治療への応用や、清涼飲料水への活用など、様々な研究報告がなされました。また翌日、県水産試験場を訪れた参加者たちは、深層水

利用研究施設を熱心に視察しました。このシンポジウムを通じて、二十一世紀における重要な科学技術となりうる海洋深層水利用の研究がいつそう進展することが期待されます。



▲深層水による増養殖施設(県水産試験場)などを見学

差別のない明るい社会を

12月4日から10日までは人権週間です。

- 子どもの人権を守ろう。
- 国際化時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 部落差別をなくそう。
- 女性の地位を高めよう。
- 障害者の完全参加と平等を実現しよう。
- 高齢者を大切に作る心を育てよう。

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である。」(世界人権宣言第1条より)

世界人権宣言は、昭和23年12月10日に国連で採決されましたが、これを記念して国連はこの日を「人権デー」と定めました。我が国では、この人権デーを最終日とする1週間(12月4日～10日)を「人権週間」として、人権意識の高揚を図る啓発運動が広く展開されています。また、本年7月に「人権教育のための国連10年」に関する国内行動計画が定められました。

私たちもこの機会に、人権の尊さについて考えてみましょう。

地球のために、 アイドリング・ストップ!

荷物の積み降ろしや待ち合わせのために車を駐停車しているとき、エンジンをかけっぱなしにしていませんか?

国や県では、環境にやさしい行動として、アイドリング・ストップ運動を推進しています。アイドリング・ストップは、二酸化炭素の排出を減らす身近な地球温暖化防止対策。皆さんも日頃から次の点に心がけましょう。

- ① 必要以上の暖機運転を避ける。
- ② 車から離れている間や荷物の積み降ろしの際の不要なアイドリングをやめる。
- ③ 運転の休憩中や人を待っているときは、なるべくこまめにエンジンを切る。

小さな心がけが大きな効果を

平均的なガソリン車の場合、アイドリングを10分間やめることにより二酸化炭素の排出を約90グラム減らすことができます。これを県内全ての自動車に換算すると、10分間のアイドリ



人権を守り、差別のない社会を

人権とは、人間として生まれてきたら誰もが持っている権利、平和のうちに自由で健康に、幸せに人間らしく生きていくための権利です。あなたの人権が守られるためには、あなた自身が他の人の人権を保障しなければなりません。そして、お互いの人権が共存するところに住みよい社会が生まれるのです。

しかし、ややもすると先入観や偏見、社会的習慣などにより、人権が軽視されたり、不当に侵害されたりすることがあります。私たち一人ひとりが、人間として尊重され、平等の権利が保障され、自由に生きがいのある生活ができる社会の実現に向けて、差別をなくす努力を続けていきましょう。

問合せ 県庁県民生活課 ☎0764-44-9646



ング・ストップで年間約2万6千トンもの二酸化炭素の排出削減になるのです。

地球温暖化を防ぐためには、日常生活のなかのこうした小さな積み重ねが必要です。あなたも今日からアイドリング・ストップを心がけましょう。

今月は、地球温暖化防止のための国際的な目標を定める地球温暖化防止京都会議(COP3)が開かれます。積極的に省エネルギーに取り組み、会議の成功を応援しましょう。

問合せ 県庁環境保全課 ☎0764-44-3145



私からみた

日本のやきもの

陶芸家 池上栄一



から技術を取り入れ、日本で最初の色釉薬を用いた奈良三彩が作られた。鎌倉時代に入ると、瀬戸の加藤四郎左衛門景正が宋に渡り、高温で釉薬をかけた陶器の技法を学び、瀬戸(愛知)で築窯(福井、備前(岡山)で作られるようになる。室町時代に入って、美濃(岐阜)でも製陶が始まる。また、室町から桃山時代にかけては、茶道の興隆によって茶器の全盛時代

になる。飛鳥時代には、仏教の伝来と共に瓦の技法が入る。奈良時代には唐の歴史は非常に古い。各時代ごとに簡潔に述べれば以下のようになる。最古のやきものは、縄文土器で、その後、弥生時代の弥生土器が作られた。古墳時代には、土師器のほか大陸から技術を取り入れた、高温でロクロを使用する須恵器の製作が始まる。飛鳥時代には、仏教の伝来と共に瓦の技法が入る。奈良時代には唐

日本人は、やきものの好きな民族であり、やきものは、現代生活の必需品でもある。日本には非常に多くの名器や絶品も残っている。現在の製陶技術、生産高、輸出高は世界有数であり、また美術陶芸作品にも優れたものが多く、したがって陶芸作家も多い。やきもの(陶磁器)とは、どのようなものかと言及述べれば、無機物質(土、石、鉱物)を主原料とし、これを単味あるいは混合して成形し、乾燥後、熱を用いて硬化させた品物ということができる。



▲作品に釉掛する池上氏



▲池上氏制作の茶器

を迎える。さらに文録、慶長の役に従軍した諸将が帰国する際、朝鮮(韓国)の陶工を連れ帰り、各地で窯を築かせ生産したため、製陶は急激に進展していった。江戸時代に入り、渡来していた陶工、李參平が有田で陶石を発見したのをきっかけに、有田(佐賀)をはじめ、瀬戸(愛知)、清水(京都)、九谷(石川)で磁器の生産が始まり、江戸時代末期には、やきものが一般日用品として、全国各地でつくられるようになった。小杉焼(富山)もこの時代に築窯されたものである。

明治時代になると、西洋の新しい技術が導入され、機械による多量生産ができるようになり、主な製陶地には、学校や試験場が設けられた。そして現在では、冒頭で述べたように、製陶技術のみならず生産高でも世界有数の国となるにいたったのである。これは、日本人が美に対する感覚が強く、やきものに対して愛着があり、研究も熱心であるからにはほかならない。

県からの お知らせ

お知らせ

第1回富山県民芸術文化祭ファイナル 「生活文化展」開催

9月から県内各地で展開している第1回富山県民芸術文化祭のファイナルとして、「生活文化展」を開催します。本展では、いけばな展の中で、絵画・書などの美術作品の展示や、舞踊、音楽などの舞台公演、お茶会などを行い、様々な分野の団体が垣根を越えて他の分野との融合を探究します。多数のご来場をお待ちしています。

日時 12月20日(土)～23日(祝)
午前9時30分～午後5時
会場 とやま自遊館

富山県女性総合センター「サンフォルテ」
入場料 無料

問合せ 富山県民芸術文化祭実行委員会事務局(県庁県民生活課内) ☎0764-44-9616

サンフォルテ・トークサロンの お知らせ

「どっするーとやま21世紀」と題して毎回多彩なゲストを迎え、トークを楽しみながら交流を深めます。12月の予定は次のとおりです。

日時 12月10日(水) 午後6時30分～8時30分
場所 サンフォルテ3階大会議室
※一時保育あり(事前申込み必要)
ゲスト 女性政策コンサルタント 森屋裕子氏

テーマ 「わたしと女性学」
問合せ サンフォルテ ☎0764-32-4500

県民カレッジ放送講座

「山に暮らす—森の精・人の営み—」

人々の暮らしに身近な「里山」の自然や、山の暮らしの映像を通して、失われつつある山村文化への理解を深めます。

受講方法 ●番組視聴(北日本放送)

1月17日(土)～3月7日(土)
毎週土曜 午前9時30分～10時(計8回)
●スクーリング

1月17日(土) 午後2時～3時30分
講師 富山県生物学会会長 長井真隆氏
3月7日(土) 午後2時～3時30分
講師 新川女子高校校長 米原 寛氏
受講料 無料(テキスト代1500円必要)
問合せ・申込み

富山市舟橋北町7-1 富山県生涯学習カレッジ
☎0764-41-8635 (内)231

中央植物園催し案内

●日曜植物案内

熱帯・亜熱帯で見られる花木を中心に解説します。

日時 12月7日(日) 午前11時～12時
場所 富山県中央植物園 展示温室
参加費 無料(入園料は必要)
※事前申込み不要

●干支にちなんだ植物展

干支に関係のある植物を実物展示やパネルで紹介いたします。

日時 12月12日(金)～1月15日(木)
午前9時～午後4時30分
場所 富山県中央植物園サンライトホール

の創造”の願いが込められています。

(作者・和歌山県の橋本英美さん)
問合せ 全国身体障害者スポーツ大会推進室
☎0764-44-8600

子育ての悩み、ご相談ください

県では、乳幼児から中学生までの子どもを持つ親等の家庭教育に関する悩みに、専門の相談員が電話で応じる「よい子の電話相談」を開設しています。

相談日 月曜～金曜 午前10時～午後5時
☎0764-33-4150 (県庁生涯学習室内)

障害者週間のお知らせ

12月3日から9日は「障害者週間」です。県では期間中、県民の障害者への理解を深めるため、キャラバンキャンペーンを展開します。

障害者を含め、全ての県民が個人として尊重されるとともに、地域社会を構成する一員として思いやりの心を持ち、支え合い共に生きる社会を築きましょう。

問合せ 県庁障害福祉課 ☎0764-44-3212

以上問合せ

富山県中央植物園 ☎0764-66-4187

埋蔵文化財センター企画展「富山を掘る」

富山県埋蔵文化財センターが開設してから現在に至る20年間で発掘された主な遺物を紹介し、原始・古代の人々の生活の様子を探ります。

会期 12月3日(水)～平成10年9月30日(水)
(土・日曜、祝祭日を除く)
場所 富山県埋蔵文化財センター展示室
入館料 無料

問合せ 富山県埋蔵文化財センター
☎0764-34-2814

平成9年度 中小企業設備貸与制度のご案内

財団法人富山県中小企業振興財団では、県内中小企業の設備の近代化を促進するため、機械設備を長期、低利で貸与しています。これは、財団が機械設備を購入し、中小企業の皆さんに割賦販売またはリースするものです。

割賦販売には、一般設備割賦制度および新技術体化設備割賦制度があり、リース制度と併せ、幅広いニーズに対応しています。

受付期間 平成10年3月31日まで随時
申込み・問合せ

財団法人富山県中小企業振興財団
☎0764-32-6922

富山県福祉の環境づくり資金創設のお知らせ

民間事業者が行う県民福祉条例施行規則に定める整備基準に適合した施設の整備(新築、新設、増築、改築、用途変更)に要する設備資金を融資します。

年末の交通安全県民運動

年末は、交通の混雑や天候の悪化、飲酒機会の増加に気をつけ、交通安全の確保が重要となります。

このため12月11日から20日までの10日間、「ゆっくりに走る雪のふるさと 北陸路」をスローガンに、

- ① 高齢者の交通事故防止
- ② 飲酒・暴走運転の防止
- ③ シートベルト着用徹底

の3点を重点として、年末の交通安全運動を実施します。交通事故の原因の多くは、前方不注意や一時不停止といった不注意によるものがほとんどです。皆さん気を引き締め、事故なく一年を締めくくります。

県広報とやまの購読について

「県広報とやま」の郵送をご希望の方は、住所、氏名、購読期間(○月号～○月号)を明記し、郵送料として190円切手を必要枚数(1月あたり1枚)を同封のうえお申込み下さい。(各市町村役場にも若干部配置)

申込み・問合せ 〒930-80 (住所記載不要) 県庁広報課
☎0764-44-3134

みなさんの相談窓口

●県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764)31-3131(県民相談電話)
FAX 44-3300(県民相談ファックス)

高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766)21-9411(代)

魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765)24-5311(代)

砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763)33-5151(代)

●物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)

●消費生活については
消費生活センター
富山市湊入船町6-7 サンフォルテ内
(一般相談は) ☎(0764)32-9233
(金融相談は) ☎(0764)33-3252

消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1本丸会館内 ☎(0766)25-2777

●交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400

●サンフォルテ電話相談
あなたの生き方、家族や職場の悩みごとの相談は
☎(0764)32-6611

●相談110番
家庭問題・悪質商法など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110

●シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター ☎(0764)41-4110

●よい子の電話相談
子育てに関して心配や悩みにお答えします。
☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

●テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週日曜日 PM5:15～5:30
「ふるさとトーク」

■富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30
「112万人のひろば-クイズ/フォーカス/イン」

■北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30
「ごんには富山県です」

12/7 地方自治法施行50周年
12/14 我がまちふるさと自慢 ～福光町～
12/21 商業の振興施策
12/28 県政この一年

■北日本放送 毎週土曜日 AM9:30～9:45
県教育委員会 小さな手 大きな目「あしたの家族」

●ラジオ放送
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をおとどけます。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55

●新聞広報「県からのお知らせ」
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日

平成10年 1月 街頭献血日程

日	献血場所	時間
4日	北陸ジャスコ 高岡店	10:00～16:30
6日	富山市役所前	9:30～16:30
7日	高岡市役所前 砺波市役所前	9:30～16:00
8日	小矢部市役所前	9:30～16:00
11日	魚津サブプラザ前	10:00～16:00
15日	アル・プラザ小杉	10:00～16:00
23日	魚津市役所前	12:30～16:00
30日	宇奈月町役場前	12:30～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等をご確認ください。

◎マリエとやま6階の献血ルームでは、月曜日を除く毎日(年末年始、マリエ休業日を除く)献血を受け付けています。
受付時間 全血献血 10:00～12:30 14:00～16:00
成分献血 10:00～12:00 14:00～17:30

◎マリエ献血ルーム(TEL0764-45-4500)
血液センター(TEL0764-51-5555)



栄養表示基準について

Q「ノンシュガー」「カルシウムたっぷり」など体に良いことがうたい文句の食品について教えて下さい。

A 栄養成分についてこのように強調表示をする場合、その食品には、

- ① 強調してある成分のほかに、エネルギー、脂質など五つの主要栄養成分の含有量を表示する。
- ② 「〇〇が多い」という表示をする場合、実際に含んでいる量は基準値以上でなくてはならない。
- ③ 「〇〇が少ない」という表示をする場合、実際に含んでいる量は基準値以下でなくてはならない。

など一定の基準があります。購入するときは成分表をよく見て、「カルシウムを摂るつもりが、カロリーを摂り過ぎた」とならないようにしましょう。

ところで、「虫歯に安心なガム」「おなかの調子を整える」などのように、保健を目的とした効果を表示した食品もあります。これらは「特定保健用食品」として上記のようなマークがついていますが、この表示には厚生大臣の許可もしくは承認が必要です。



あ姉ちゃん……
カルシウム食品だって、
カロリーはあるのよ

カルシウム食品
はかり食ってるのに
なせ太るのよ

特定保健用食品には、成分や効果のほかに「他の食品に起因する虫歯を予防する効果はない」「食べすぎるとおなかゆるくなる」などのように、摂取の上での注意事項も必ず表示されています。また、1日当たりの摂取量の目安や主要栄養成分の含有量なども表示されていますから、購入時の参考にするとよいでしょう。

健康のためには、バランスのよい食事や適度な運動といった普段の生活習慣の方が大切です。栄養成分強調表示食品や特定保健用食品は、あくまでも食品ですから、過度の効果は期待せずに補助的に利用する程度にしましょう。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)92333、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★「大会では参加ロボットがどれも強そうに見えて、とても緊張しました」と大沢野高の森野君と田畑君。私も学生時代、試合に出場したときは、周りじゅうの選手が強敵に見えた。実際対戦してみるとそうでもなかったりするのだが……

さて、サッカーでは見事悲願のワールドカップ出場を果たした日本代表。イランのあのいかつい髪を恐れなかったイレブンは正直偉いと思うのだ。(M・K)

★先日、生地の共同洗いを訪れた時のこと。大町の洗い場で洗っている女性に会った。私のつまらない質問にも快く答えてくれて、最後に「最近では全自動洗濯機が普及したためか、共同洗い場で洗濯をする人が減ったんです。特に若い人はあまり利用しませんね。でも私はここでみんなと話をしながら洗濯するのが好きなんですよ。」といたずらっぽく笑った。(M・I)

★今年もあと一か月となり、新年を迎える準備が本格化してきた。だが、師走の慌ただしい人々の流れに、無計画な買い物へと駆り立てられる私の懐は日々寂しくなるばかり。一月の通帳には前年からのローン返済が数多く記載されることだろう。せめて仕事だけは、今年の〇〇は今年のうちに、気持ち良く新年を迎えられようとしたものだ。(Y・I)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を選定で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。平成10年1月23日消印有効です。

氏名	富山県広報課
住所	写真プレゼント
年齢	12月号係あて
電話	
本誌を読んだ感想	

とやま 水紀行

地域の人々のにぎやかな語らいの場

生地の共同洗い場(黒部市)



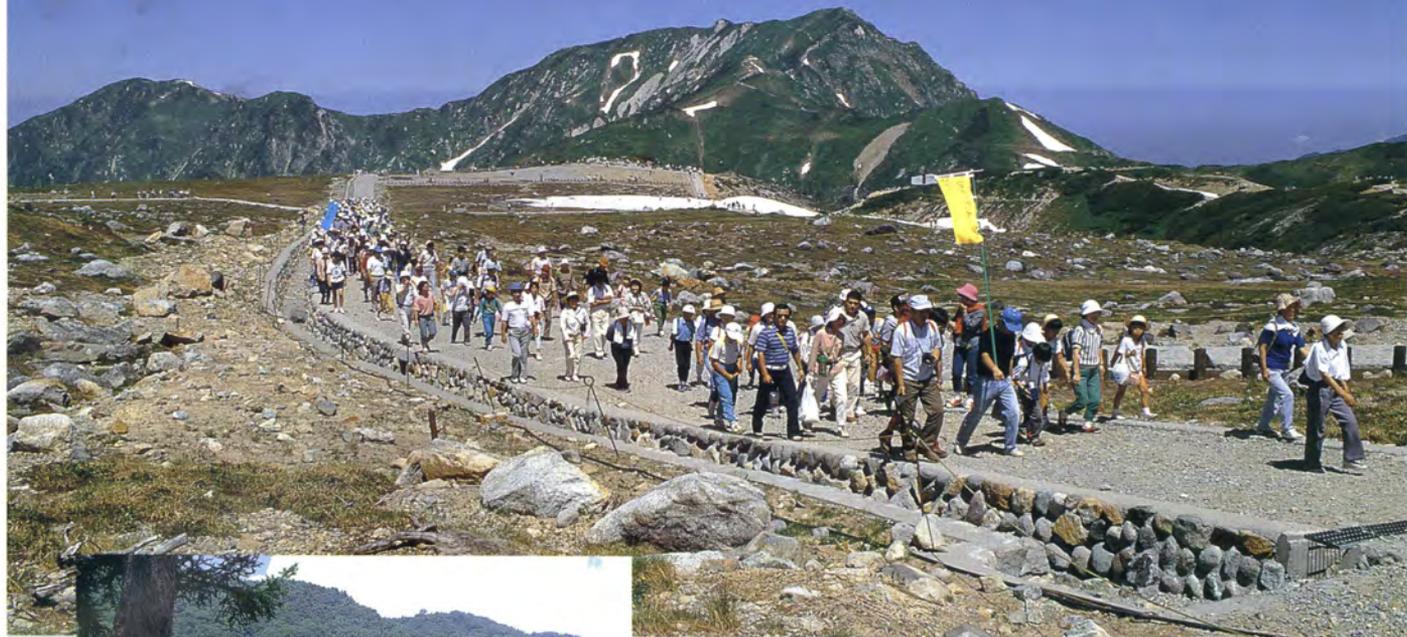
黒部川扇状地の扇端部に広範囲にわたって広がっている黒部川扇状地湧水群は、環境庁の全国名水百選に選ばれている。なかでも生地地区は、いたるところから伏流水が湧き出す「清水の里」。これらの湧き水を利用して「生地の共同洗い場」は、古くから地元の人々の生活用水として親しまれている。現在は六か所の共同洗い場が利用されているが、なかでも豊富な水量を誇るのが「大町共同洗い場」。深さ約百メートルの掘り抜き井戸から毎分五百リットルもの清浄な水が絶えず間なく湧き出し、ステンレス製の水槽は常に満々と水をたたえている。また、水槽は四つに仕切られ、水の流れに沿って順に飲用、調理用、食器洗い用、洗濯用と使い分けられている。

どの共同洗い場も、湧水の水温は一年を通じて十一度前後。夏にはスイカやトマト、ビールを冷やし、冬には大根や白菜を洗うなど生活に密着した光景が見られる。管理は地域住民が共同で行い、各家庭が使える洗い場を町内会で定めているほか、当番を決めて定期的に清掃している。

利用者の多い朝や夕方には、軽やかな水音にのせて楽しそうな話し声が響きわたる共同洗い場。その泉は生地の人々の暮らしに深く根を下ろし、今日もふれあいとぬくもりを育み続けているのである。

立山で 両手いっぱい 大自然

～第40回自然公園大会標語決定～



立山山麓地域において来年八月に開催される第四十回自然公園大会の標語が決定しました。二千点以上の応募作品のなかから選ばれたのは、山森寿彦君（大山町立大庄小学校五年）の「立山で 両手いっぱい 大自然」。

この標語を活用して、今後、同大会を広く県内外にPRしていきます。

自然にふれあい親しむことは、心身の健康を増進するとともに、自然を大切にすることを育みます。

国立公園をはじめとする自然公園は、国民一人ひとりが共有する貴重な財産。この美しい財産を次の世代へ引き継いでいくことは、私たちに課せられた使命です。

自然公園大会は、自然と人との関わりについて考え、自然を守り、人と自然との豊かなふれあいを推進するための祭典です。



開催概要

- ▼期 日 平成10年8月5日(水)～6日(木)
- ▼場 所 立山山麓地域
- ▼参加人数 約4,000人(来春一部募集)
- ▼実施機関 環境庁 富山県(財)国立公園協会
第40回自然公園大会実行委員会
- ▼内 容 5日…式典 タベの集い キャンプファイヤー 野営
6日…野外活動(ハイキングなど18種目)

※イベントとして、国内外の新しい自然解説活動を提唱する「全国ナチュラリスト大会(仮称)」を開催。